



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月10日

上場会社名 オイシックス・ラ・大地株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3182 URL https://www.oisixradaichi.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高島 宏平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画本部長 (氏名) 松本 浩平 (TEL) 03-6867-1149
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA(※1)		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	87,400	16.9	4,979	△18.8	6,385	△11.3	3,294	△15.5
2021年3月期第3四半期	74,790	42.7	6,131	283.8	7,198	202.3	3,900	460.4

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 3,454百万円(△8.0%) 2021年3月期第3四半期 3,752百万円(493.6%)

(※1) EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却費としています。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2022年3月期第3四半期	円 銭 90.15	円 銭 90.10
2021年3月期第3四半期	103.12	102.92

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	56,761	24,353	39.8
2021年3月期	38,360	19,991	49.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 22,592百万円 2021年3月期 19,090百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期(※)	113,000	12.9	3,500	△53.1	5,500	△38.2	2,500	△50.3	68.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(※) 通期の営業利益額は3,500百万円~4,000百万円、EBITDAは5,500百万円~6,000百万円を見込んでおります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年3月期3Q	38,014,492株	2021年3月期	37,998,908株
2022年3月期3Q	1,469,787株	2021年3月期	1,469,655株
2022年3月期3Q	36,541,920株	2021年3月期3Q	37,821,606株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による経済影響が大きかったものの、ワクチン接種等の施策拡大により段階的に影響が縮小しております。また10月以降、緊急事態宣言の解除による外食やレジャーの再開により、個人消費の動向やニーズも徐々に変化しております。

一方、感染再拡大の懸念による外出控えやリモートワークなどの不可逆的なライフスタイルの変化は継続しており、EC経由の購買行動の裾野の拡大や、食品宅配に対する消費者の需要は引き続き高い状態を継続しております。

このような環境の中、当社グループにおいては、食を支えるインフラ企業として、安定的な出荷キャパシティや商品サプライの確保に取り組むとともに、お客様の家庭での食の在り方が大きく変化する中で、「健康・免疫意識の高まり」、「家庭での食事頻度・人数の増加」など新しいお客さまニーズに沿った商品・サービスを提案するなど、新型コロナウイルス感染症による変化対応を優先的に実施してまいりました。また、経営戦略の柱である「国内宅配事業の成長・収益力強化」に向け、カスタマーエクスペリエンスの進化及びローコストオペレーションの取組みの実行や、「サステナブルリテール戦略」に基づいたフードロスの削減や温室効果ガス削減への取組みを強化しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は87,400百万円(前年同期比16.9%増)、営業利益は4,979百万円(前年同期比18.8%減)、EBITDAは6,385百万円(前年同期比11.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,294百万円(前年同期比15.5%減)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

① 宅配事業(O i s i x)

インターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(O i s i x)は、共働きの子育て世代を主要ターゲットとし、プレミアムな時短を実現する商品、サービスを提供しております。会員数については、注文頻度の低いお客さま約10,000人の退会手続きを行った影響により減少となったものの、前連結会計年度末(2021年3月末)の308,899人から、当第3四半期連結会計期間末(2021年12月末)には345,409人へと当初計画を上回って増加しております。加えて、年末年始の高単価商材や主力商品であるKit Oisixの売行きが好調に推移している影響により、売上高は増加しております。

一方、セグメント利益は、当初計画に対し順調に推移しているものの、新規獲得のための販促費増や新海老名ステーションの費用増などの成長に向けた費用の投下により、コロナ影響によりイレギュラーに増加した前年同期のセグメント利益と比べ減少しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	45,190百万円(前年同期比 22.0%増)
セグメント利益	6,525百万円(前年同期比 6.9%減)

② 宅配事業(大地を守る会)

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(大地を守る会)は、シニアの二人暮らし世帯を主要ターゲットとし、「ちゃんとした食生活」のコンセプトの元、ターゲットニーズに沿った新サービスの開発、磨き上げに注力しております。足元では、宅配需要の急激な高まりは落ち着きつつあり、新サービスである「まるごはん」を活用した新規獲得のチャレンジを行っております。会員数は、前連結会計年度末(2021年3月末)の45,307人から、当第3四半期連結会計期間末(2021年12月末)には45,730人へ微増しております。

また、売上高・セグメント利益については、手軽に健康実感をできる商品・サービスの開発強化などの施策により、当初計画に対し順調に推移しているものの、コロナ影響によりイレギュラーに増加した前年同期の売上高、セグメント利益と比べ減少しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	10,154百万円(前年同期比 5.6%減)
セグメント利益	1,748百万円(前年同期比 7.9%減)

③ 宅配事業(らでいっしゅぼーや)

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(らでいっしゅぼーや)は、料理を楽しみたい世帯を主要ターゲットとし、“料理を通じて日々の暮らしが楽しくなる”をコンセプトとした商品、サービス開発を進めております。会員数については、2021年3月にローンチした新サービス「ふぞろいRadish」を活用した新規獲得が好調に推移し、前連結会計年度末(2021年3月末)の62,751人から、当第3四半期連結会計期間末(2021年12月末)には66,206人へと増加しております。

また、売上高・セグメント利益については、当初計画に対し順調に推移しているものの、コロナ影響によりイレギュラーに増加した前年同期の売上高、セグメント利益と比べ減少しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	13,336百万円(前年同期比 2.3%減)
セグメント利益	1,883百万円(前年同期比 23.1%減)

④ 宅配事業(Purple Carrot)

米国で、ヴィーガンに特化したミールキットの宅配事業を展開するPurple Carrotは、米国の行動制限の解除及び経済活動の再開により、消費者の購買動向が実小売店舗に戻っている影響のため、会員数も当第2四半期連結会計期間末と比べ減少しておりますが、前年同期比では、会員数は大幅に伸長しており、売上高、セグメント利益ともに大きく増加いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	7,893百万円(前年同期比 23.6%増)
セグメント利益	471百万円(前年同期比 1,051.8%増)

⑤ その他事業

当セグメントは、ソリューション事業、店舗事業、海外事業(Purple Carrotを除く)、卸事業等からなるその他事業であります。

他社EC支援(ISETAN DOOR、dミールキット)などのソリューション事業が順調に推移したことや、前年同期に新型コロナウイルス感染症のマイナス影響を受けた店舗・保育園などの卸事業の業績が回復、伸長したことにより、全体では売上高・セグメント利益ともに大幅に増加いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	11,194百万円(前年同期比 55.1%増)
セグメント利益	1,287百万円(前年同期比 27.5%増)

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して18,400百万円増加し、56,761百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して3,251百万円増加し、32,552百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少2,509百万円、売掛金の増加3,849百万円、商品及び製品の増加642百万円、未収入金の増加590百万円、その他流動資産の増加575百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して15,149百万円増加し、24,209百万円となりました。これは、有形固定資産の増加14,392百万円、無形固定資産の減少135百万円、投資その他の資産の増加892百万円によるものであります。有形固定資産の増加の主な要因は、新海老名ステーション(物流センター)の建物に係るリース資産の増加12,774百万円であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して14,039百万円増加し、32,408百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して1,842百万円増加し、19,383百万円となりました。これは主に、買掛金の増加2,854百万円、未払金の増加160百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加137百万円、リース債務の増加667百万円、未払法人税等の減少1,897百万円、ポイント引当金の減少217百万円、その他流動負債の増加197百万円によるものであります。なお、ポイント引当金の減少の主な要因は、収益認識に関する会計基準等の適用によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して12,196百万円増加し、13,024百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少125百万円、リース債務の増加12,095百万円、資産除去債務の増加261百万円、繰延税金負債の増加11百万円によるものであります。

負債及び固定負債のリース債務の増加の主な要因は、前述のリース資産の増加の主な要因と同一であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して4,361百万円増加し、24,353百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益3,282百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月13日に公表いたしました2022年3月期通期連結業績予想では、新型コロナウイルスの感染拡大ならびにそれに伴う食材宅配サービスへの需要が段階的に収束することを前提としておりましたが、当第3四半期累計期間において、感染拡大の影響が継続し、食品宅配サービスへの需要が高い状況が継続しております。

当社においても、想定よりも国内宅配事業を中心に定期会員数およびARPU(月間購買単価)が伸長し、売上高は前回予想を上回る見通しとなりました。

一方、利益面については、売上高増加により利益は増加したものの、2022年1月24日に公表いたしました「Oisix新物流センターの移転時トラブル」による利益損失により、前回発表予想を下回る見通しとなりました。

なお、業績予想は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,580	13,071
売掛金	8,485	12,334
商品及び製品	1,730	2,373
仕掛品	85	121
原材料及び貯蔵品	422	529
未収入金	2,789	3,379
その他	412	987
貸倒引当金	△205	△246
流動資産合計	29,301	32,552
固定資産		
有形固定資産		
リース資産(純額)	43	12,510
その他(純額)	2,191	4,115
有形固定資産合計	2,234	16,626
無形固定資産		
のれん	1,698	1,370
その他	2,064	2,257
無形固定資産合計	3,763	3,628
投資その他の資産	3,062	3,954
固定資産合計	9,059	24,209
資産合計	38,360	56,761
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,173	9,028
短期借入金	1,040	1,000
1年内返済予定の長期借入金	9	146
リース債務	25	692
未払金	6,178	6,318
未払法人税等	2,292	394
賞与引当金	—	2
ポイント引当金	279	61
その他	1,541	1,739
流動負債合計	17,540	19,383
固定負債		
長期借入金	245	120
リース債務	30	12,126
役員退職慰労引当金	6	7
資産除去債務	325	541
繰延税金負債	13	25
その他	206	203
固定負債合計	828	13,024
負債合計	18,369	32,408

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,993	3,994
資本剰余金	8,014	8,015
利益剰余金	11,718	15,015
自己株式	△4,502	△4,503
株主資本合計	19,223	22,521
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25	6
為替換算調整勘定	△158	63
その他の包括利益累計額合計	△133	70
非支配株主持分	900	1,761
純資産合計	19,991	24,353
負債純資産合計	38,360	56,761

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	74,790	87,400
売上原価	37,026	44,994
売上総利益	37,764	42,405
販売費及び一般管理費	31,632	37,426
営業利益	6,131	4,979
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	4
受取補償金	12	13
補助金収入	—	24
資材リサイクル収入	5	4
償却債権取立益	10	19
持分法による投資利益	—	48
その他	22	24
営業外収益合計	50	139
営業外費用		
支払利息	14	51
株式交付費	17	—
為替差損	19	12
持分法による投資損失	249	—
その他	6	5
営業外費用合計	307	69
経常利益	5,874	5,049
特別利益		
債務消滅益	—	123
特別利益合計	—	123
特別損失		
投資有価証券評価損	—	7
特別損失合計	—	7
税金等調整前四半期純利益	5,874	5,165
法人税、住民税及び事業税	2,092	1,707
法人税等調整額	△73	206
法人税等合計	2,019	1,914
四半期純利益	3,855	3,251
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△44	△43
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,900	3,294

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	3,855	3,251
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△11
為替換算調整勘定	△69	222
持分法適用会社に対する持分相当額	△33	△7
その他の包括利益合計	△102	203
四半期包括利益	3,752	3,454
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,797	3,497
非支配株主に係る四半期包括利益	△44	△43

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

1. 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

当社は、2020年4月8日を払込期日とする公募による新株式の発行により、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ1,953百万円増加しております。

また、2020年5月1日を払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当による新株式の発行により、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ341百万円増加しております。

これらの結果等により、当第3四半期連結会計期間末において資本金が3,993百万円、資本剰余金が8,007百万円となっております。

2. 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

自社ポイント制度に係る収益認識

当社は、宅配事業においてカスタマー・ロイヤリティ・プログラムを提供しております。会員の商品購入に伴い付与をするポイントについて、従来は、付与したポイントの利用に備えるため、将来利用されると見込まれる額をポイント引当金として計上しておりましたが、付与したポイントを履行義務として認識し、将来の失効見込み等を考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行う方法に変更しております。

本人及び代理人取引に係る収益認識

顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が本人に該当する取引のうち、顧客から受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識していたものは、顧客から受け取る対価の総額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は487百万円増加し、売上原価は992百万円増加し、販売費及び一般管理費は505百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ0百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は1百万円増加しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を 守る会)	宅配事業 (らでいっし ゅぼーや)	宅配事業 (Purple Carrot)	計			
売上高								
日本	37,036	10,761	13,653	—	61,451	6,168	—	67,619
米国	—	—	—	6,361	6,361	—	—	6,361
その他	—	—	—	—	—	809	—	809
顧客との契約から生じる収益	37,036	10,761	13,653	6,361	67,812	6,978	—	74,790
外部顧客への売上高	37,036	10,761	13,653	6,361	67,812	6,978	—	74,790
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	24	24	237	△261	—
計	37,036	10,761	13,653	6,385	67,836	7,215	△261	74,790
セグメント利益	7,012	1,898	2,449	40	11,401	1,010	△6,279	6,131

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業(Purple Carrotを除く)・卸事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を 守る会)	宅配事業 (らでいっし ゅぼーや)	宅配事業 (Purple Carrot)	計			
売上高								
日本	45,190	10,154	13,336	—	68,682	10,279	—	78,961
米国	—	—	—	7,856	7,856	—	—	7,856
その他	—	—	—	—	—	582	—	582
顧客との契約から生じる収益	45,190	10,154	13,336	7,856	76,538	10,861	—	87,400
外部顧客への売上高	45,190	10,154	13,336	7,856	76,538	10,861	—	87,400
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	37	37	333	△370	—
計	45,190	10,154	13,336	7,893	76,575	11,194	△370	87,400
セグメント利益	6,525	1,748	1,883	471	10,628	1,287	△6,936	4,979

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業(Purple Carrotを除く)・卸事業等を含んでおります。
2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「宅配事業(Purple Carrot)」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

(会計方針の変更)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「宅配事業(Oisix)」の売上高は393百万円減少、セグメント利益は0百万円増加し、「宅配事業(大地を守る会)」の売上高は111百万円減少、セグメント利益は0百万円増加し、「その他」の売上高は992百万円増加し、セグメント利益に与える影響はありません。